

社会政策学会 Newsletter

No.5(通号No.28)2001.10.5

- 学会本部 ● 埼玉大学経済学部 上井喜彦気付 URL <http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/sssp/>
Tel&Fax048-858-3331 E-mail kamii@eco.saitama-u.ac.jp
● 事務センター ● 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-7-2 大橋ビル (株)ワールドプランニング
Tel 03-3431-3715 Fax03-3431-3325 E-mail world@med.email.ne.jp

1. 役員選挙、投票締め切り迫る
2. 第103回大会近づく
・事務局からのお願い
・大会プログラム
・臨時総会議案

3. 春季大会企画委員会報告
4. 幹事会記録
5. 承認された新入会員
6. プログラム正誤表

2002年春から2004年春までを任期とする役員選挙の投票締め切りが目前に迫っています。選挙管理委員会から会員に郵送されました「社会政策学会役員選挙に関するお願い」に記されていますように、選挙期日は2001年9月18日より2001年10月17日までで、2001年10月17日までに選挙管理委員会(株式会社ワールドプランニング内 社会政策学会事務センター気付)に郵送により届いたものが有効です。忘れていらっしゃる方は急いで投函してください。この選挙が適切・公正に実施されるために、1人でも多くの会員が積極的に投票されるようお願いいたします。

——社会政策学会第103回大会近づく——

社会政策学会第103回大会は2001年10月20日～21日に東北学院大学土樋キャンパスおよび東北大学経済学部川内キャンパスで開催されます。大会事務局からお願いの文章が届きましたので掲載します。

社会政策学会103回大会事務局からのお願い

ここ杜の都仙台も秋が深まり、木々の紅葉も美しい季節になってまいりました。103回大会開催まであと10日ほどになりました。東北部会員と事務局スタッフ一同準備に追われておりますが、まだ出欠の葉書きを出しておられない会員の方もおられるようですので急いで返送して下さるようお願い致します。

なお、仙台空港から会場へお出での方もおられるかと思いますが、仙台空港からリムジンバスを利用し仙台市立病院前で下車されますと、会場の東北学院大学へは徒歩5分ほどです。

東北学院大学経済学部 齋藤義博

第103回大会プログラム

共通論題：「グローバリゼーションと社会政策の課題」

事務局：東北学院大学経済学部 齋藤義郎研究室

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1

TEL：022-721-3353 e-mail：ts0092110@tscc.

tohoku-gakuin.ac.jp

第1日 2001年10月20日(土)

開場・受付 9:00 東北学院大学土樋キャンパス6号館1階入り口

書評分科会 10:00～12:00

第1会場 5号館1階512番教室

<福祉政策>座長 高田一夫(一橋大学)

評者：埋橋孝夫(日本女子大学)

橋木俊詔『セーフティネットの経済学』日本経済新聞社

評者：福原宏幸(大阪市立大学)

都留民子『フランスの貧困と社会保障：参入最低限所得(RMI)への途とその経験』法律文化社

評者：森隆男(中京学院大学)

手塚直樹『日本の障害者雇用：その歴史・現状・課題』光生館

第2会場 5号館2階522番教室

<労使関係>座長 松丸和夫(中央大学)

評者：赤堀正成(一橋大学)

平井陽一『三池争議』ミネルヴァ書房

評者：熊沢透(福島大学)

木下順『アメリカ技能養成と労資関係：メカニックからマンパワーへ』ミネルヴァ書房

評者：荒井寿夫(滋賀大学)

松村文人『現代フランスの労使関係：雇用・賃金と企業交渉』ミネルヴァ書房

第3会場 6号館2階621番教室

<女性労働>座長 居神浩(神戸国際大)

評者：清山玲(茨城大学)

塩田咲子『日本の社会政策とジェンダー：男女平等の経済基盤』日本評論社

評者：柚木理子(川村学園女子大学)

木本喜美子・深沢和子編『現代日本の女性労働とジェンダー』ミネルヴァ書房

評者：森ます美(昭和女子大学)

熊沢誠『女性労働と企業社会』岩波書店

第4会場 6号館3階631番教室

<社会政策形成史>座長 乗杉澄夫 (和歌山大学)
評者: 加宮祥男 (九州大学)
木村周市郎『ドイツ福祉国家思想史』未来社

評者: 木下秀雄 (大阪市立大学)
高橋弦『ドイツ社会保障成立史論』梓出版社
評者: 所道彦 (大阪市立大学)
毛利健三編著『現代イギリス社会政策史: 1945~1990』
ミネルヴァ書房
第5会場 6号館3階632番教室
<労働市場・賃金>座長 藤本剛 (秋田経済法科大学)
評者: 真瀬勝康 (札幌大学)
森廣正編『国際労働力移動のグローバル化』法政大学
出版局
評者: 横田伸子 (山口大学)
イ・ミンジン『賃金決定制度の韓日比較』梓出版社

12:00~13:00 昼休み (幹事会、各種委員会)

テーマ別分科会(1) 13:00~16:00 5号館1階512番教室
「ヨーロッパにおけるホームレス問題への挑戦—Social
Exclusionの視点から—」
座長・コーディネーター 都留民子 (広島女子大学)
(1) 「ドイツにおけるホームレス支援政策」
嵯峨嘉子 (神戸親和女子大学)
庄谷怜子 (神戸女子大学)
(2) 「イギリスにおけるホームレス支援政策」
中山徹 (大阪府立大学)
(3) 「フランスにおけるホームレス支援政策」
福原宏幸 (大阪市立大学)
(4) 「EUレベルにおけるホームレス支援策と Social
Exclusion」 福原宏幸 (大阪市立大学)

テーマ別分科会(2) 13:00~14:45 5号館2階522番教室
「ファミリーフレンドリーな雇用管理」
座長・コーディネーター 久本憲夫 (京都大学)
(1) 「ファミリーフレンドリー企業と育児支援政策」
中村艶子 (同志社大学)
(2) 「育児休業の代替要員問題」 脇坂明 (学習院大学)
(3) 「育児休業が雇用管理に与える影響」
富田安信 (大阪府立大学)

個別報告分科会(1) 13:00~14:45 6号館2階621番教室
「福祉・介護・雇用」 座長 三富紀敬 (静岡大学)
(1) 「医療と福祉が生産と雇用を誘発する効果—1995年の
産業連関表による分析—」
塚原康博 (明治大学短期大学)
(2) 「保育サービスの供給と利用にみられる都市間格差—
韓国の大邱市を事例として—」
金銀淑 (金沢大学大学院)
(3) 「介護保険導入にともなう福祉施設経営の諸変化」
照内八重子 (立正大学大学院)

個別報告分科会(2) 13:00~14:45 6号館3階631番教室
「労働・社会問題」 座長 長井偉訓 (愛媛大学)
(1) 『「家族ぐるみ」闘争の再検討—日鋼室蘭争議を事例と
して—』 中村弘伸 (一橋大学大学院)
(2) 「教師の労働負担」 千田忠男 (同志社大学)
(3) 「なぜ社会政策・社会保障論にとって保険原理は必要

なのか—従業員・他人の生命が侵されていく構造—」
本田照光 (青山学院大学)

個別報告分科会(3) 15:00~16:45 5号館2階522番教室
「生産システム・格差問題」座長 橋元秀一 (國學院大学)
(1) 「イノベーション育成型社会経済システムへの転換
—グローバル化・情報通信革命の分業構造へ
のインパクト—」 久野国夫 (九州大学)
(2) 「セル生産方式の展開と特質—Reflective Production
Systemとの比較を通じて—」 浅生卯一 (弘前大学)
(3) 「学歴達成の階層・地域間格差と入試類型」
松尾孝一 (青山学院大学)

個別報告分科会(4) 15:00~16:45 6号館2階621番教室
「マイノリティー問題」 座長 寒川尚周 (富士大学)
(1) 「戦後の被差別部落における就業構造の変化」
大西知恵 (大阪市立大学大学院)
(2) 「ホームレスと日本の社会保障の限界—川崎市の路上
生活者聞き取り調査を踏まえて—」
渡邊幸良 (富士大学)
(3) 「アメリカ路上生活者対策における市場原理と『ケア
の継続』」 小池隆生 (専修大学大学院)

個別報告分科会(5) 15:00~16:45 6号館2階621番教室
「社会保障・ジェンダー」座長 服部良子 (大阪市立大学)
(1) 「アメリカ401(K)の歴史的意義に関する—考察」
吉田健三 (京都大学大学院)
(2) 「家計のジェンダー化と貧困測定」
室住眞麻子 (帝塚山大学)
(3) 「性別階層制からの脱出」 田中重人 (東北大学)

臨時総会 17:00~18:00 8号館4階841番教室
懇親会 18:30~20:30 東北学院同窓会館

**第2日 2001年10月21日(日) 9:30~16:30
東北大学経済学部川内キャンパス第1講義室**

共通論題「グローバル化と社会政策の課題」
コーディネーター 玉井金五 (大阪市立大学)
座長 相沢与一 (高崎健康福祉大学)
竹内敬子 (成蹊大学)

午前の部 9:30~12:00

- ・「グローバル化と地域統合の時代における社会
政策の可能性」 中村健吾 (大阪市立大学)
- ・「グローバル化と外国人IT労働者—アメリカ
のIT産業におけるH-1B Workers—」
夏目啓二 (龍谷大学)
- ・「通貨危機と民主化過程下のインドネシアにおける労働
組合運動」 水野広祐 (京都大学)

12:00~13:00 昼休み (幹事会、各種委員会)

午後の部 13:00~16:30

- ・「21世紀におけるグローバル化と政策・制度課
題—アジアにおける日本の挑戦—」
井口泰 (関西学院大学)

総括討論 (14:00)
終了 (16:30)

第103回大会臨時総会議案

上記プログラムにもありますように、第103回大会第1日目の10月20日(土)17時から18時まで臨時総会を開催
します。幹事会として臨時総会に提案する議案のうち予算(案)と企画委員会規程(案)を以下に掲載します。

1. 社会政策学会2002年度予算(案)

自2002年4月1日 至2003年3月31日

【支出の部】

(単位:円)

項目	2002年度予算額	参考:2001年度予算額	対前年度増減	備考
会費収入	8,779,200	8,583,900	195,300	会員数に連動
大会参加費	1,650,000	1,350,000	300,000	春季1,100,000、秋季550,000
雑収入	100,000	100,000	0	
利子収入	1,000	1,000	0	
当期収入計	10,530,200	10,034,900	495,300	
繰入金	1,949,851	1,221,287	728,564	
収入合計	12,480,051	11,256,187	1,223,864	

【支出の部】

項目	2002年度予算額	参考:2001年度予算額	対前年度増減	備考
大会開催費	1,800,000	1,700,000	100,000	
春季大会	800,000	750,000	50,000	参加費徴収費用等
秋季大会	800,000	750,000	50,000	参加費徴収費用等
大会企画委員会活動費等	200,000	200,000	0	
部会活動費	300,000	300,000	0	
学会誌発行費	4,807,000	4,567,500	239,500	
学会誌代金	4,657,000	4,517,500	139,500	会員数に連動
編集委員会活動費	150,000	50,000	100,000	一元化、投稿論文審査等
選挙関連費	0	300,000	(300,000)	
学会賞関係費	250,000	250,000	0	
記念品代等	100,000	100,000	0	
審査員交通費等	150,000	150,000	0	
業績リスト作成費	200,000	200,000	0	
名簿関連費	500,000	0	500,000	前回の実績に基づく
名簿作成費	350,000	0	350,000	
名簿発送費	150,000	0	150,000	
内外諸学会分担金	120,000	120,000	0	
本部経費	2,165,000	1,928,550	236,450	
幹事会費	50,000	50,000	0	
ニューズレター発送費	270,000	261,900	8,100	会員数に連動
学会事務委託費	945,000	916,650	28,350	会員数に連動
その他事務経費	900,000	700,000	200,000	会費請求関連費・NL制作費等
予備費	300,000	300,000	0	
当期支出合計	10,442,000	9,666,050	775,950	
繰越金	2,038,051	1,590,137	447,914	
合計	12,480,051	11,256,187	1,223,864	

注) 会員数を名誉会員 20 人、普通会员 860 人、院生会員 120 人、計 1,000 人と見込む。

<2002 年度予算(案)作成上の留意点>

1) 会員数は、最近の入会の実績に基づき、1,000 人(内、名誉会員 20 人、普通会员 860 人、院生会員 120 人)と見込んで収支予算を作成する。

2) 会費収入は、最近の納入の実績に基づき、納入率を 93%と見込んで計上する。

(860 人 * 0.93 * 10,000 円) + (120 人 * 0.93 * 7,000 円)

3) 大会参加費は、春季大会に普通会员 300 人・院生会員

- 100人、秋季大会に普通会員150人・院生会員50人の参加を見込んで計上する。
 (300人*3,000円+100人*2,000円)+(150人*3,000円+50人*2,000円)
- 4) 大会開催費は、大会参加費徴収費用等を見込み、各大会50,000円ずつ増額する。
- 5) 学会誌代金は、会員数と納入率に連動させる。
 (20人*5,000円)+(980人*0.93*5,000円)
- 6) 編集委員会活動費は、学会誌の一元化、投稿論文審査等を見込み、100,000円を増額する。

- 7) 名簿関連費は、前回の実績に基づき、500,000円を計上する。
- 8) ニュースレター発送費は、会員数に連動させる。
 1,000人*90円*3回
- 9) 学会事務委託費は、会員数に連動させる。
 (1,000人*900円)+消費税
- 9) その他事務経費は、会費請求関連経費の増大やニュースレター制作費の増大等を勘案し、200,000円を増額する。
 (文責：禹)

2. 企画委員会規程 (案)

春季大会企画委員会規程

- 第1条 春季大会企画委員会は、委員長、副委員長、専門部会より選出の部会委員、幹事会の委嘱による委員によって構成される。
- 第2条 委員長、副委員長は、幹事会において幹事の中から選任する。
- 第3条 委員長、副委員長の任期は2年とする。再任は妨げないが3選は禁止する。
- 第4条 幹事会は、学会員を企画委員に委嘱することが出来る。任期は2年とする。
- 第5条 春季大会企画委員会は、秋季大会企画委員会との連携のもとに以下の事項について検討し幹事会に提案する。
- 1 春季大会の企画
 - 2 専門部会の活動
 - 3 学会の活動
- 第6条 春季大会企画委員会は必要に応じて委員長が召集する。
- 付則 1 本規程は2001年 月 日から施行する。

秋季大会企画委員会規程

- 第1条 秋季大会企画委員会は、委員長、副委員長、地域部会より選出の部会委員、幹事会の委嘱による委員によって構成する。
- 第2条 委員長、副委員長は、幹事会において幹事のなかから選任する。
- 第3条 委員長、副委員長の任期は2年とする。再任は妨げないが3選は禁止する。
- 第4条 幹事会は、学会員を企画委員に委嘱することが出来る。任期は2年とする。
- 第5条 秋季大会企画委員会は、春季大会企画委員会との連携のもとに以下の事項について検討し幹事会に提案する。
- 1 秋季大会の企画
 - 2 地域部会の活動
 - 3 学会の活動
- 第6条 秋季大会企画委員会は必要に応じて委員長が召集する。
- 付則 1 本規程は2001年 月 日から施行する。

春季大会企画委員会報告 (年次報告)

2001年9月22日の第14回幹事会に、春季大会企画委員長の森建資幹事から、今春の102回大会の総括を含む春季大会企画委員会の2000年度の年次報告が提出されましたので、以下に全文を掲載します。

今回の春季大会企画委員会は2000年5月の社会政策学会100回大会から活動を開始し、1年間はおもに102回大会の構成を考えることと専門部会の活性化に力を注いだ。その後は104回大会開催に向けて努力している。その時々々の任務については努力したつもりであり、企画委員の奮闘にも感謝している。だが、なお解決すべき課題も多く残った。これからの前進のために、それらの課題をここで紹介し、その解決のために皆様の御助力を期待したい。

<共通論題関連>

(1) 従来は1年先の春季大会の企画は当該年度の大会開催以前から始まっており、共通論題のテーマ、報告者についても十分に検討する時間が与えられていた。それに対して今回の春季企画委員会は100回大会終了時、事実上は6月から活動開始となったために、早急に102回大会の共通論題設定、報告者選びを迫られた。そのため、十分に議論を重ねて共通論題を設定できなかった。7月、8月には報告者を決めなければならないとすると、6月に委員会メンバーが始めて顔を合わせてから決定に到るまでの時間が余りになさ過ぎた。

(2) しかし、現在104回大会の準備を進めている中で、大会共通論題に関する準備が十分に出来ないのは、必ずしも時間的制約だけではないことが判明した。時間的には、104回大会の準備は102回大会の開催以前から行えたにもかかわらず同じような問題に直面しているか

らである。

(3) この様な状況に到った原因はいくつか考えられる。第1に企画委員会といたしながら、プログラムの完成までは大会準備に関与せざるをえず、狭い意味での「企画」そのものに特化できないことが挙げられる。第2には会員の意見を吸い上げるルートが確立していないため、企画委員会の判断で大会の企画を進めることにならざるをえない点が指摘できる。第3には、企画委員会は委員長を除いて専門部会の代表からなっている点が挙げられる。第2と第3の問題が関連していることはいうまでもない。

<専門部会関連>

(4) 専門部会が学会の守備範囲をうまくカバーしており、しかも専門部会活動が活発であれば、組織的にそれら専門部会の代表と委員長で構成されている企画委員会の仕事も円滑に進められるだろう。今回は専門部会選出の企画委員はいずれも積極的に仕事に関与していただき、何一つ文句のつけようのない仕事をしてくださった。企画委員会が直面していた問題は企画委員の母体である専門部会が制度としてまどうまく機能していない点に求められる。

(5) 専門部会の問題の一つは、社会保障、社会福祉関係の部会の充実に比べて、学会のもう一つの柱である労働問題、労資関係関係の部会がわずか労働史部会しかなかったことにある。この問題については、企画委員会より幹事会、会員への働きかけを行い、有志による産業労働部会(仮称)の設立にこぎつけることが出来た。また専門部会がな

い領域については、幹事会が企画委員が指名できるように現在お願いをしている。

(6) 専門部会の問題の第二は、一部の部会を除いて部会活動が余り活発ではないことである。事実上大会の分科会を担当するのが唯一の部会活動であるというのがむしろ常態であるという現実、ぜひとも改善されなければならないと思われる。ジェンダー部会が大会以外に部会を開くなど、新しい動きも始まっており、企画委員会としてもそれらを援助して行きたい。

(7) 専門部会活性化の一環として専門部会を大会中に持つことを102回大会から始めたが、初回ということもあって、ほとんど会員が集まらなかった。今後さらに工夫が必要かと思われる。

<秋季大会企画委員会との関係>

(8) 企画委員会内部では(秋季企画委員会を含めて)、春、秋をつないで長期的に企画を考えるべきだとの傾聴すべき意見もあったが、今だ実現できないでいる。上に指摘したように、春季大会企画委員会内部でももう少し企画について議論できる状態を作らないと、秋季大会企画委員会との議論を行ったとしてもなかなか具体的な話に入っていないのではないかと思う。

(9) ただこの問題については何らの前進がなかったというのではなく、共通論題や分科会について秋季大会企画委員会との連携が徐々に出来あがりつつある。

(文責：森建資)

幹事会記録

【第13回】

日時：2001年7月14日(金) 14:00~17:00

場所：中央大学後楽園キャンパス理工学部6号館1826号室

出席者：ウー、遠藤、伍賀、斎藤、下山、関口、玉井、中川、中原、早川、三富、森建資、森廣正、鷺谷、上井(計15名)

オブザーバー参加：高木郁郎(104回大会開催校)

議題：

<報告事項>

1. 現勢報告

全会員数 969名：<内訳>普通会員 848名(行方不明2名を含む)、院生会員 99名(行方不明1名を含む)、名誉会員 22名

2. 岩田幹事の留学に伴う幹事補充の件

岩田幹事が9月に留学されることに伴い、会則第13条の規定によって前回の役員投票における関東・甲信越ブロックの次点者から補充しなければならないが、塩田咲子会員と高橋祐吉会員という二人の次点者のうち、高橋会員が幹事になったとの報告が代表幹事からあった。

3. 第102回大会開催校からの報告

鷺谷幹事から標記の報告があり(ニューズレターNo.4に掲載)、多くの幹事から感想・意見が出された。なお、102回大会でも各会場でレジユメが足りなくなるという事態が出たので、審議した結果、今後は大会開催前に開催校宛にレジユメを一定部数送ることを報告者に求めることとした。

4. 役員選挙関係

選挙管理委員長の中原幹事から「選挙管理委員会からののお知らせ」がニューズレターNo.4に掲載された際に脱漏が出たので、会員宛に追加のハガキを発送することにしたとの報告があった。

5. 学会誌関係

編集委員長の森廣正幹事から編集委員会体制をどうするか等、学会誌一本化に付随して早急に解決しなければならない問題があるとの報告があった。幹事会で若干意見交換し、編集委員会で原案を考えていただくこととした。なお、法律文化社との契約については、幹事会としては、正副編集委員長と代表幹事に一任することとした。

6. 経済政策研連関係

研連委員の遠藤幹事から、科研費審査委員推薦方法をめぐる経済政策研連のその後の動向について報告があった。それよると、我々が予想しなかった事態として研連執行部から規程案が出され、研連委員会で決定された。また、その規定は社会政策学会にとっては不利であるが、弱小学会の利益を配慮したものに見える、というのが内容である。

幹事会は、今後は規定の適用に私利が持ちこまれたり、科研費の採用にあたって社会政策学会員が不当に差別されることがないように、監視することが重要になってくるという認識で一致した。

<審議事項>

1. 新入会員の承認

6名の新入会員を承認した(後掲)

2. 第103回大会関係

玉井秋季大会企画委員長から、103回大会の企画のうち残っている自由論題に関し、応募状況の説明があり、併せて時間配分、個別報告のグルーピング、個別報告の座長について提案があった。幹事会はこれを了承した。

3. 第104回大会関係

森建資春季大会企画委員長より、来春開催される104回大会の共通論題に関し、論題を「雇用関係の変貌：雇用形態の多様化と時間管理の交替」(仮題)とするほか、提案趣旨、報告候補者について提案があった。この提案に関し、各幹事は提案趣旨には同意したが、論題と報告候補者については意見が出され、幹事会としては企画委員会に一層詰めていただくこととした。

またテーマ別分科会に関して、全体として公募時期を早めるとともに、専門部会以外の分科会については企画委員会がリードする企画も考えるという方針の提起があり、幹事会はこれを了承した。

【第14回】

日時：2001年9月22日(金) 14:00~17:00

場所：東京大学経済学部7階第1共同研究室

出席者：池田、ウー、遠藤、斎藤、関口、玉井、中原、早川、森建資、森廣正、牧野、伊藤会計監査、上井(計13名)

議題：

1. 現勢報告

前回幹事会時の現勢=969名、前回幹事会で承認した新入会員=6名、前回幹事会以降の退会者=1~2名で、計973ないし974名

2. 新入会員の承認

6名の新入会員を承認した(後掲)

3. 選挙関係

中原選挙管理委員長から役員選挙について、10月19日の開票作業を開催校に手伝わってもらえるかという問題提起があった。これを受けて斎藤幹事から、東北部会と開催校が手伝うという回答があった。

また、今回推薦が少なかった理由として、幹事会出席のための交通費の自己負担が関係しているという意見が幹事の中から出てきた。この点について議論した結果、収入の大幅増が見込まれる2003年度を見据え、むしろ学会活

動全体の課題として「旅費規程」を考えることで合意した。

4. 法律文化社との契約

代表幹事から8月30日付けで法律文化社と契約を取り交わしたとの報告があった。

5. 2001年度学会賞選考委員の決定

代表幹事から、未定になっていた1人を含め以下の5名を2001年度学会賞選考委員としたいとの提案があり、幹事会は提案通りに決定した。上田修、武川正吾、木本喜美子、中川清、三富紀敬。

6. 経済政策研連関係

遠藤幹事が、経済政策研連執行部から科研費審査委員推薦規程適用の今後数年間にわたるシュミレーション集計結果が配布されたこと、それから推測すると社会政策学会からの審査委員推薦は格段に減少するだろうとの報告があった。

7. 103回大会準備

玉井秋季大会企画委員長および開催校事の齋藤幹事から、103回大会の準備状況の報告があった。

8. 104回大会企画

森建資春季大会企画委員長から、前回幹事会での議論を踏まえ、104回大会の共通論題の論題を「雇用関係の変貌：雇用形態の多様化と時間管理の変化」としたいとの提案があり、併せて座長候補者と報告候補者が示された。幹事会はこの提案を了承した。

9. 103回大会臨時総会議題関係

1) 2002年度予算(案)

ウー幹事から2002年度予算(案)とその作成上の留

意点について説明があり、幹事会で審議した結果、一部修正してこれを幹事会案とすることとした。(本ニューズレター掲載)

2) 企画委員会規程

春季大会企画委員会規程(案)、秋季大会企画委員会規程(案)については、これまで幹事会で確認された規程案(本ニューズレター掲載)を提案することとした。ただし、両規程(案)とも第4条にある「幹事会は、学会員を企画委員に委嘱することが出来る。」という規定に関し、春季については4名、秋季については2名を上限とすること、またいずれも「委員長の申し出により幹事会が委嘱すること」を運用ルールとすることを確認した。

3) 編集委員会の体制整備・規程改正関係

代表幹事から、今後の編集委員会の問題としては体制強化があるが、臨時総会で「学会誌編集委員会規程」第1条にある編集委員の人数規定を「計16人」から「計20人」に改正したうえで、編集委員会体制再編を編集委員会で検討していただくことにはどうか、という問題提起があった。審議の結果、編集委員会で検討していただくこととした。

10. 「社会政策学会史」小委員会について

懸案の「社会政策学会史」小委員会の設置について、代表幹事から、委員を募集して委員会を構成することとし、その委員会が作成した研究計画にもとづいて幹事会が予算措置を含む方針案を来春の104回大会に提案できるようにしたいとの提案があり、幹事会はこれを了承した。

<承認された新入会員>

氏名	所属	専攻	推薦者
<7月14日の第13回幹事会での承認(6名)>			
足立真理子	東京大学大学院経済学研究科博士課程	経済理論 東アジア経済論	竹内敬子 森建資
中村広伸	一橋大学大学院社会学研究科博士課程	労働史 家族史	木本喜美子 兵藤淳史
横山文野	東京大学大学院法学政治学研究科(PD)	行政学 ジェンダー研究	所道彦 埋橋孝文
森川美絵	東京都立大学人文学部	介護政策(供給システム論、介護労働論)	大沢真理 埋橋孝文
大北秀明	駒澤大学大学院経済学研究科	社会政策、とりわけスウェーデン型市民社会の研究	光岡博美 三井逸友
浦坂純子	同志社大学文学部社会学科	経済統計論 労働経済学	千田忠男 石田光男
<9月22日の第14回幹事会での承認(6名)>			
佐藤厚	日本労働研究機構研究所	産業社会学 人事労務管理論	仁田道夫 中村圭介
砂脇恵	種智院大学仏教学部仏教福祉学科	社会福祉政策	木村敦 芦田麗子
松本一郎	(株)アイシーエイ G@cademy	社会政策 社会福祉	三井逸友 中山徹
中村艶子	同志社大学言語文化教育研究センター	アメリカ研究(女性労働)	久本憲夫 石田光男
篠崎香子	お茶の水女子大学人間文化研究科博士後期課程	国際移動 ジェンダーとエスニシティ	竹内敬子 上井喜彦
山本真美	淑徳大学社会学部	フェミニスト・シティズンシップ理論 児童福祉政策	金子光一 武川正吾

【お詫びと訂正】

ニューズレターNo.4の本欄で、2001年5月27日の第12回幹事会で承認された新入会員を紹介する際、澤邊岳彦氏の名前を渡邊岳彦氏とするミスを行いました。澤邊氏には大変失礼しました。深くお詫びし、以下のように訂正します。

<5月27日の第12回幹事会での承認(5名)>の上から4人目

氏名	所属	専攻	推薦者
澤邊岳彦	法政大学大学院社会科学研究所	社会保障(保険・医療・福祉)・企業論	ウー・ジョン・ウォン 高田一夫

第103回プログラム正誤表

第103回大会プログラムに印刷ミスがありましたので、謝して訂正します。

第103回大会事務局 齋藤義博

- 3頁と10頁 個別分科会(5)(3)田中正人氏の報告
タイトル
<誤>性別階層性からの脱出

- <正>性別階層制からの脱出
- 12頁 <誤>井口泰 → <正>井口泰
- 表紙のメールアドレス <誤>soo → <正>s00